

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 4月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170400832		
法人名	有限会社エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 発寒		
所在地	〒063-0882 札幌市西区発寒2条2丁目3番20号 (電話) 011-671-8533		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月17日

【情報提供票より】 (平成21年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 6 月 24 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	62,000円 暖房費8,000円(11月~3月)		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 含 円
	または1日当たり 1,340 円		

### (4) 利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静明館診療所 札幌デンタルクリニック さくら歯科クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症の家族の介護経験から、「お年寄りも家族も安心して生活できる場を作ろう」という深い思いで開設された事業所である。利用者が住みなれた地域で、その人らしく暮らせることを何よりも大切にし、具体的実践に取り組んでいる。利用者が閉じこもることの無いように、本人の希望に添った行事参加や、外出支援が積極的に行われていて、1対1で出かける「フリープラン」は利用者の楽しみ事の一つになっている。24時間対応の医療連携体制が整備され、協力医との連携を図りながらのターミナルケアの経験もあり、介護の質の高さが覗がわれる。利用者との信頼関係の深さと、安心感のある生活が感じられる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘された5項目について、主任会議や全体会議などで話し合わせ、管理者と共に職員一人ひとりが課題に向け取り組み、改善されているが、具体的改善計画を立てての取り組みには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 申し送りの時間を利用し、全職員で取り組み、管理者・主任がまとめ作成されたが、自己評価結果について全体ミーティングなどは行われていない。ケアの振り返りや見直しに役立てる意味でも、外部評価での課題については、個別に改善計画を立て検証し記録する事が望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年間の運営推進会議事業計画を立て、2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所での生活の紹介・行事の案内・自己評価・外部評価の結果などの報告を行っている。意見・質問・要望など率直な意見交換が行なわれ、質の向上に向けて取り組んでいる。前回の会議では、避難訓練の報告が行われた。今年度は、町内会や地域住民の協力が得られるような取り組みを検討中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時や毎月発行される家族通信などを通して知らせている。家族の来訪は多く、その都度家族の意見、要望、心配事などに耳を傾けている。また、家族会や運営推進会議の場でも意見、要望、心配事などに耳を傾け、サービスの質の向上、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所として町内会に加入している。地域の行事などには利用者と共に積極的に参加している。発寒川の清掃、盆踊り、小学校の学習発表会見学など、又、事業所の行事へのお誘いも行い、事業所と地域住民との関係が深まってきている。常に地域に根ざした開かれた事業所になるよう取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価での指摘を受け、地域密着型サービスの理念をどう作るか、全職員で検討した結果、今までの理念の中に「地域」という文言を入れることとし、事業所独自の理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間、事務室にわかりやすく掲示している。理念の見直しの場において、職員間で積極的に意見交換が行われている。また、職員採用時や研修時にも理念について話されているが、日常的な理念の意識づけには至っていない。	○	日々のサービス提供において、理念が反映されているか、深く掘り下げて職員全体で話し合いや意識づけを行い、具体的ケアについて意見の統一が図られる事が望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として町内会に加入し、河川の清掃、盆踊り、新年交流会や、交通安全の行灯作りなど、利用者と共に参加し交流を深めている。外出が多いので、散歩時の近隣住民との挨拶や声かけは日常的に行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を正しく理解し、全員で自己評価に取り組み、ケアの見直しに反映させているが、外部評価の結果を活かした具体的な改善計画などを立てられるまでには至っていない。	○	ケアの振り返りや見直しに役立てる意味でも、外部評価で出された課題については、個別に改善計画を立て、検証し、こまめに記録することが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。討議内容は、年間計画を立て、それに基づいて行われている。事業所での生活の紹介・行事案内・避難訓練・自己評価・外部評価結果などの報告を行い、そこで出た意見、要望、質問などをサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者会議などを通じて連絡調整を行っている。運営に関しての相談や利用者の処遇等について、関係者の協力を得ながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時や家族会、毎月1回発行の家族通信を通して知らせている。個々の預かり金についても、毎月家族に報告し、その内容を確認してもらっている。おこづかい帳の家族の確認サインに関しては、家族会などで再度検討予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪は頻繁にあり、日頃から意見、要望などが言いやすい雰囲気である。運営推進会議や家族会の場での聞き取りなども行い、事業所の運営に反映させている。重要事項説明書にも、内部、外部への苦情相談窓口が明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者、職員は、利用者や家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応する重要性を理解し、関係が継続できるよう努めている。やむを得ない職員の離職、異動があった場合は、ダメージの軽減や安心感への配慮を心がけている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は、職員育成の重要性を認識し、内部研修はもちろん外部研修にも参加できる体制を整え、積極的に参加している。研修計画を基に、段階に応じた研修受講の機会を提供し、研修後は報告を行い内容の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区の管理者会議に参加し勉強会や研修会を通じて、職員育成に役立つ実践的な交流が行われていたが、去年は他の事業所との連携が執れず交流は行われなかった。	○	管理者会議でのネットワークを活用し、スタッフの見学や交換研修、勉強会などを通して、サービスの質の向上に活かせる継続的な交流が期待される。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人と家族に見学してもらい、意見、要望、質問などを聞き、希望により体験入居などを行いながら、徐々に馴染めるよう配慮している。帰宅願望の強い方には、家族と協力しながら、自宅と事業所を行き来しながらの支援が行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念である「介護する、されるの関係ではなく共に地域で暮らす仲間でありたい」という言葉どおり、職員は支援する側、支援される側という意識は持ってはいない。人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、利用者の生活歴を振り返り、調理法、裁縫、生け花など出来る事、得意な事を見出し、共に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の基本情報を踏まえた上で、日々の暮らしの中での会話や表情を注意深く観察し、その真意を推し測り、把握に努め、利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の個別カンファレンスのほか、「生活みなおしカンファレンス」を行い、職員の気づき、意見などを話し合い、家族や関係者の要望などに配慮し、一人ひとりに合った個別計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとの見直しであるが、毎月のカンファレンスや、日々のケア記録や申し送りの中で、身体状況に変化があった時は、現状に即した計画を作成するよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整っており、利用者の健康面での充実を図っている。利用者や家族の状況、要望に応じて、馴染みの医院への通院介助、外食や買い物、ドライブなど、事業所所有の車で臨機応変かつ柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、定期受診や訪問診療、緊急時には24時間相談でき、適切な治療が受けられる体制である。利用者、家族の希望に応じて、これまでの馴染みの医院へ継続的に受診できるよう支援している。また、家族の要望による職員同行の受診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関する対応の指針を整備し、同意を得ている。現在まで2名の看取り経験があり、「旅立ちノート」を作成し、終末期にむけた方針の共有を図った。本人や家族の意向に沿うよう協力医療機関との連携を密にしながらの支援が行われた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴を理解し、尊厳を損なわない言葉づかいや対応を行っている。記録の保管など、その取り扱いも適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや状態を考慮し、常に利用者本意のペースを大切に、個々の希望に添うよう柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立に活かしている。利用者の力量に応じ、食事の準備や配膳、片付けなどの一連の作業を職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態に応じて、概ね週2回～3回の入浴支援が行われている。利用者の希望によっては、毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者には、無理強いせず、湯に入ることへの抵抗感を無くす声かけや対応を工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や身体状況から、それぞれ得意な事や興味のある事等を引き出し、日々の生活の中に喜びや楽しみ、生きがいを持てるよう支援している。調査訪問時、組みひもを熱心にされている方や、調理の手伝い、後片付けなど、それぞれが生き生きと生活している姿が伺えた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の多くは外出に喜びを感じ、日常的な散歩や買い物のほか、利用者の希望を聞きながら職員と出かける「フリープラン」を実施している。また、同一事業所の新川と「ほほえみクラブ」を結成し、利用者同士の交流を積極的に行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は鍵をかけるが、日中はかけていない。玄関ドアにはセンサー付きチャイムや、中のドアには音の出る物が取り付けられ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は定期的に行っている。具体的避難方法や、役割分担等のマニュアルも作成している。避難階段も独自に作成し、設置している。今年度は消防署と一緒に訓練を2回実施する予定で、地域住民の参加も得られる方法を現在検討中である。	○	運営推進会議などでも話し合われているが、地域住民の参加協力を得ての避難訓練の実現にまでは至って無いため、運営推進会議等の機能をさらに活かした取り組みが期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を毎日記録し、全職員で情報を共有している。また、一人ひとりの状態や能力に応じた支援も行われている。管理栄養士によるアドバイスも受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、玄関や居間や廊下の壁には、手作り作品や季節を感じられる飾り付けがあり、家庭的な雰囲気を大切にしよう工夫している。昼食時の居間では童謡が流れ、落ち着いた雰囲気での食事風景であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、本人の使い慣れた家具や好みの装飾品が置かれ、仏壇には生花も添えられるなど、それぞれの好みに応じた環境の中で居心地良く過ごせるよう工夫されている。また、部屋の乾燥を防ぐために、ポールを設置し濡れタオルなどが干せるよう工夫している。		

※  は、重点項目。